東京フィルハーモニー交響楽団　Tokyo Philharmonic Orchestra

Coriolan Overture and Symphony No. 7

Beethoven

2020 7

オフィシャルサプライヤー
SONY　Rakuten　マルハン　LOTTE　ゆうちょ銀行

目次

2020年 7月
July 2020

プログラム 3
出演者プロフィール 4
楽曲紹介 5

Program 8
Artists Profile 9
Program Notes 10
Next Subscription Concerts 14

東京フィルだより 16
2020シーズン定期演奏会ラインナップの変更について 17
東京フィルメンバーからのメッセージ 18
Photo Reports 20
6月定期演奏会　公演レポート 22
2020シーズン 午後のコンサート ラインナップ 25
ご支援の御礼とお願い 27
賛助会 28
ご支援のお願い／チケットサービスより 31
東京フィルハーモニー交響楽団／楽団員一覧 35
理事･監事･事務局一覧 38

お願い：　演奏中はお手持ちの時計や電子機器のアラームが鳴らないようご注意ください。携帯電話、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。
Attention: Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during the performance.

第940回サントリー定期シリーズ　終演予定20:00

7.15(水)19:00開演　サントリーホール 大ホール

第135回東京オペラシティ定期シリーズ　終演予定20:00

7.17(金)19:00開演　東京オペラシティ コンサートホール

第941回オーチャード定期演奏会　終演予定16:00

7.19(日)15:00開演　Bunkamuraオーチャードホール

指揮：佐渡 裕

コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン:

序曲『コリオラン』ハ短調 Op.62（約8分）

ベートーヴェン:

交響曲第7番 イ長調 Op.92（約40分）

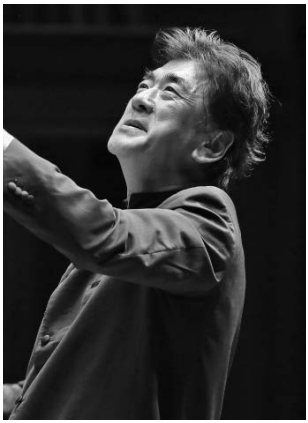
Ⅰ. ポーコ･ソステヌート ― ヴィヴァーチェ
Ⅱ. アレグレット
Ⅲ. プレスト ― トリオ：アッサイ･メーノ･プレスト
Ⅳ. アレグロ･コン･ブリオ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）｜
独立行政法人 日本芸術文化振興会
協力：Bunkamura（7/19）

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

※当初の発表から指揮者･曲目が変更となっております。
※本公演に途中休憩はございません。ただし、本公演に限り演奏中や曲間･楽章間での入退場を可能といたします。体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
※再入場･途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。
※お帰りの際には、お手数ですがお手元の入場券はがきに<ご来場者様のご氏名･ご住所･電話連絡先>をご記入の上、ロビーの回収ボックスに投函してお帰りください。ご協力をお願い申し上げます。

出演者プロフィール



©Takashi Iijima

指揮

佐渡 裕

Yutaka Sado, conductor

京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン指揮者コンクール優勝。1995年第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクール優勝。パリ管弦楽団、ケルンWDR交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、北ドイツ放送交響楽団等一流オーケストラを多数指揮している他、海外でのオペラ公演でも実績を重ねており、オランジュ音楽祭での『蝶々夫人』(2007年)、トリノ王立歌劇場での『ピーター・グライムズ』(2010年)、『カルメン』(2012年)、『フィガロの結婚』(2015年)等を指揮。

2015年9月よりオーストリアを代表し、110年の歴史を持つトーンキュンストラー管弦楽団音楽監督に就任。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラの首席指揮者を務めている。最新盤はトーンキュンストラー管を指揮した14枚目のCD『佐渡裕×辻井伸行 ラヴェル作品集』を2020年5月にリリース。著書に『棒を振る人生～指揮者は時間を彫刻する～』(PHP新書)等がある。

オフィシャルファンサイト:http://yutaka-sado.meetsfan.jp

楽曲紹介

ベートーヴェン(1770-1827)
序曲『コリオラン』ハ短調 Op.62

解説=柴田克彦

古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)が、“傑作の森”と呼ばれる中期まっただ中の1807年に完成した単独の序曲。ベートーヴェンは、ウィーンの劇作家コリンの戯曲「コリオラン」に感銘を受けて作曲し、コリンに献呈したが、戯曲の上演時に演奏されることはなかったという。

コリオランは、紀元前5世紀頃のローマの英雄コリオラヌスのドイツ語名。功賞後、政治的な諍いで追放され、敵軍と結託して逆襲を謀ったが、母や妻の説得に従って断念し、悲劇的な最期を遂げた。

曲は、アレグロ・コン・ブリオ、ハ短調。うごめくような第1主題(コリオランを表わす)と、優美な第2主題(母や妻を表わす)を軸に、終始緊張感を漂わせながら進行し、ピッツィカートの3音(コリオランの死)で終結する。総休止の多用が劇的効果を高め、強音と弱音の対比も際立っている。

[作曲年代] 1807年　**[初演]** 1807年3月　ウィーン
[楽器編成] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

しばた・かつひこ(音楽ライター)／音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。雑誌、公演プログラム、宣伝媒体、CDブックレット等への寄稿、プログラム等の編集業務のほか、一般向けの講演や講座も行うなど、幅広く活動中。著書に「山本直純と小澤征爾」(朝日新書)。

ベートーヴェン(1770-1827)
交響曲第7番 イ長調 Op. 92

解説=沼口 隆

ベートーヴェンの作品を深く愛したフランスの文豪ロマン・ロランは、交響曲第7番が「リズムのオルギア」であるとした。「オルギア」とは、そもそもは古代ギリシアのディオニソス教の秘教的な儀式を指す言葉だが、現代ではいわゆる「乱痴気騒ぎ」を指すようだ。またロランは、同じ文脈の中で、この交響曲が「超人的なエネルギーの、楽しみのための野放図な濫費」であるとも指摘している。常軌を逸したものがあることを認識しつつ、そこに同時に天才性の精髄も感じ取っていたのであろう。純粋なリズムを通じた熱狂が、既存の枠組みを遥かに超越し、いわば沸点を超えてなお沸き立ち続けている状態とでも言えば良いだろうか。こうした印象は無論、楽曲のあらゆるところに妥当するというわけではない。しかし、第1楽章の後半、第3楽章の主部、そしてとりわけ第4楽章などにおいて、沸き上がるような音楽の勢いはたしかに、ベートーヴェンに特有の構築性と言うよりは、純粋な律動によって生み出されているように感じられよう。

スケッチは1811年9月頃から翌年の4月頃にかけて行われた。1812年5月8日付の書簡には「すぐにでも、まったく新しい交響曲をお約束できます」とあり、同月25日付の書簡にも「私は3つの新しい交響曲を書きますが、そのうちのひとつはすでに完成しました」とあるため、遅くとも5月頃にはほぼ完成していたと見て良いであろう。1813年12月8日の初演は、同年10月末にドイツのハーナウで起きた戦闘におけるオーストリアとバイエルンの傷病兵のための慈善演奏会で行われ、対ナポレオン戦争での勝利への期待感と愛国的感情にも後押しされて、大きな熱狂を持って迎えられた。4日後の再演も含め、この機会にベートーヴェンは国民的な人気作曲家として歓迎されるようになっていった。祝祭的な性格の強い交響曲が、完成から1年半あまりを経てようやく初演された時、たまたまこうしたタイミングになったということも興味深い歴史的な巡り合わせである。

第1楽章 ポーコ・ソステヌート イ長調、4/4拍子 ― ヴィヴァーチェ イ長調、6/8拍子。序奏を伴うソナタ形式。規模の大きな序奏は、明確かつ安定した形式を成しており、主部への導入と言うよりは、それ自体として自律的である。フ

ルートとオーボエが「ターンタタン」というリズムを示して主部に入るが、このリズムが楽章全体の基調となる。フルートによって優雅に提示される主要主題もまた、このリズムを核としており、のちに総奏で力強く繰り返される。

第2楽章 アレグレット イ短調、2/4拍子。3部形式。この主要主題のみは1806年にスケッチされており、当初は弦楽四重奏曲ハ長調op.59-3（いわゆる「ラズモフスキー第3番」）の緩徐楽章の主題の候補として構想された。イ長調の朗らかな中間部に対し、第1、3部分の二つの主部が対比されるが、第1部分では変奏技法が駆使されるのに対し、第3部分では対位法を用いた展開部や中間部の再現があるなど、「A－B－A」には括りきれないユニークな形式である。

第3楽章 プレスト ヘ長調、3/4拍子 **— トリオ：アッサイ・メーノ・プレスト** ニ長調、3/4拍子 3度のスケルツォ主部が、2度のトリオを挟み込む形の5部形式。ベートーヴェンの時代には、緩徐楽章でのみ異なる調となるのが通例だが、第2楽章が同主短調であったためか、第3楽章で遠隔調が選択されている。躍動感に満ちた主部に対し、トリオではドローン（低音の保属音）が鳴り響き、3度並行音程などの要素と相俟って田園風の雰囲気となる。

第4楽章 アレグロ・コン・ブリオ イ長調、2/4拍子。ソナタ形式。「オルギア」の真骨頂とも言うべき楽章で、属和音の多用、弱拍の強奏といった要素を豊富に織り交ぜて、和音の解決やリズムの安定化を無意識に期待させることにより、全体により一層の推進力が与えられている。動機的な関連づけは綿密だが、軍隊行進を思わせる副次主題のように対比的な要素も含まれており、簡素な素材から多様性を生み出す手腕がいかんなく発揮されている。

[作曲年代] 1811年9月頃～1812年5月頃　**[初演]** 1813年12月8日　ウィーンにて、作曲家自身の指揮による
[楽器編成] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

ぬまぐち・たかし（音楽学）／東京藝術大学准教授。主要な研究領域はベートーヴェンをはじめとする18～19世紀のドイツ語圏の音楽。共著に『楽譜を読む本～感動を生み出す記号たち～』（ヤマハミュージックメディア）ほか。共訳に『ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第32番op.111 批判校訂版: 分析・演奏・文献』（音楽之友社）ほか。

The 940th Suntory Subscription Concert
Wed. July 15, 2020, 19:00 at Suntory Hall

The 135th Tokyo Opera City Subscription Concert
Fri. July 17, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 941th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. July 19, 2020, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Yutaka Sado, conductor
Akihiro Miura, concertmaster

15 July
17 July
19 July

Ludwig van Beethoven:
"Coriolan" Overture in C minor, Op. 62 (ca. 8 min)

Ludwig van Beethoven:
Symphony No. 7 in A major, Op. 92 (ca. 40 min)

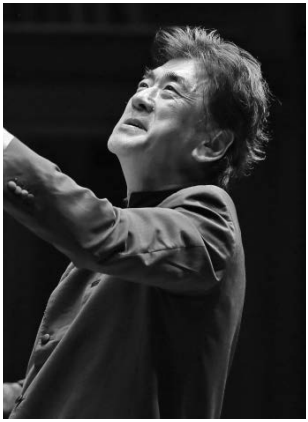
Ⅰ. Poco Sostenuto - Vivace
Ⅱ. Allegretto
Ⅲ. Presto, assai meno presto
Ⅳ. Allegro con brio

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
Subsidized by
the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
Japan Arts Council
In Association with Bunkamura (July 19)

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

- The conductor and the program have been changed from the original announcement.
- As there will be no intermission during the concert in order to preserve social distancing, entering and exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one you were originally assigned.
- Please write your name/address/phone number in the permission post card, and post it in the collection box in the lobby before you leave the concert. We would sincerely appreciate your cooperation.

Artists Profile



©Takashi Iijima

15 July
17 July
19 July

Yutaka Sado, conductor

Yutaka Sado's successful fifth season as the Music Director of the Tonkunstler Orchestra has lead them to the extension of the contract to the 2024/25 season. A long-time assistant to Leonard Bernstein and Seiji Ozawa, Sado appeared with renowned orchestras such as Berlin Philharmonic, Bayerische Staatsorchester, London Symphony Orchestra, Orchestre de Paris, WDR Sinfonieorchester Koln, NDR Hamburg, and Bayerischen Rundfunks Munchen.

A native of Kyoto, Japan and a recipient of the Premier Grand Prix critics at the 39th International Conducting Competition in Besancon and the Leonard Bernstein International Conducting Competition in Israel, Sado currently serves as the Artistic Director of the Hyogo Performing Arts Center and of its resident orchestra.

Yutaka Sado's many-facetted musical achievements have been documented in numerous CDs and DVDs. His latest releases are from Tonkunstler Orchestra's label: "Works by Maurice Ravel with Nobuyuki Tsujii," Gustav Mahler's Second and Fifth Symphonies.

Program Notes

by April L. Racana

Ludwig van Beethoven (1770-1827)
"Coriolan" Overture in C minor, Op, 62

In the summer of 1806, Beethoven had gone to stay with Prince Lichnowsky at his summer castle in Silesia. It was there he would be introduced to Count Franz von Oppersdorf who lived nearby and was also a strong advocate of music. It is said he would not hire any servant that could not also play an instrument, thereby assuring an in-house orchestra for his own enjoyment. An ardent admirer of Beethoven's works, Oppersdorf arranged for the composer's Second Symphony to be performed when he visited, and subsequently commissioned him to write a new symphony.

Although Beethoven had begun work on a new symphony in C minor (what would become his Fifth Symphony), he set this piece aside and began writing the newly commissioned work for Oppersdorf instead. Presumably this commission would give the Count exclusive performing rights for the first six months, including the premiere. However, upon completion of the work in the autumn of 1806, Beethoven chose instead to premiere the Fourth Symphony back in Vienna in March of 1807. This performance was sponsored by another patron, Prince Lobkowitz, and included several new works by the composer, including the Fourth Piano Concerto, as well as the work being performed for this concert series, the *Coriolan Overture*.

Written early in 1807, the *Coriolan Overture* was apparently not inspired as much by Shakespeare's theatrical production of the same name, as it was by the German poet, Heinrich Joseph von Collin's dramatic interpretation. In fact Beethoven dedicated this overture to the poet, and instigated a revival of the drama at the Burgtheater in

Vienna in April of that same year. Although the revival of von Collin's production was not a success, Beethoven's musical overture depicting the tragic events has continued to be received well by orchestras and audiences worldwide.

Having already begun sketches in C minor for his Fifth Symphony, the *Coriolan Overture* is also set in what may very well be Beethoven's favoured minor key. It seems to be ideal to set the tone for the turmoil at the height of the drama, with the strings opening pronouncement on unison C's, answered by the full orchestra on a single resolute chord. These introductory exclamations repeat several times, gradually rising in pitch and setting the scene for the ensuing rise in tensions.

Coriolanus had been exiled from Rome and was determined to exact his revenge by arranging for the enemies' army to attack the city. However, his mother pleaded with him not to go through with the attack, if for no other reason than to protect his own family. The contrast between the agitated rhythms of the first theme and the more tender second theme depicting his mother's plea for his compassion, aptly portray the struggle going on in the main character's own heart and mind. Ultimately Coriolanus resolves his passionate struggle the only way he sees fit by taking his own life, the final soft pulsings in the orchestra, presumably representing his last breaths.

Work composed: 1807 **World premiere**: March, 1807 in Vienna
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, timpani, strings

Ludwig van Beethoven (1770-1827)
Symphony No. 7 in A major, Op. 92

With his continually declining health in the summer of 1811, Beethoven was referred by the prominent Viennese physician, Dr. Giovanni Malfatti to retreat to the Bohemian town of Teplitz, which was well-known for its spas that 'cure'. Apparently the respite did some good, if only for the heart, mind and soul, as Beethoven returned to Vienna with sketches for two symphonies, the Seventh being the first he set to writing in the winter of 1811-1812.

15 July
17 July
19 July

The first movement opens with a slow introduction, punctuated by emphatic chords before leading into the seminal rhythmic motive that pervades the entire work in various forms. The traditional sonata form is adhered to, however it is thought that the repetitive rhythms and chromatic bass line found in the coda may have led to Carl Maria von Weber's claim that this was evidence that the composer was "ripe for the madhouse."

The *Allegretto* title of **the second movement** may seem misleading at first for the so-called slow movement, however it seemed Beethoven wanted to be sure this section was not played as slow as previous *'adagio'* movements. This movement came to be extremely popular with its extended version of the 'long-short-short' rhythmic motive over an intriguing A-minor melody, gradually building in intensity, to the extent that the entire movement was often repeated as an encore.

The third movement's scherzo and trio extends the usual ABA form, so that one hears the trio an additional time. The trio utilizes yet another version of the long-short-short rhythmic pattern in its main theme, the melody of which is apparently taken from an Austrian Pilgrim's hymn heard when the composer was in Teplitz.

The final movement is also in the traditional sonata form and brilliantly develops the seminal rhythmic motive even further, leading to two immense 'tutti' climaxes at the previously unheard of extreme dynamic of ***fff*** . The composer himself conducted the highly successful premiere in 1813 in Vienna, at a benefit concert for Austrian and Bavarian soldiers who had been wounded in the Napoleonic Wars.

With as much, if not more emphasis on the rhythmic versus the melodic motives, the dance-like feeling found throughout the work perhaps led to Wagner's famous quote: "This symphony is the very apotheosis of the dance." He went on to say: "If anyone plays the Seventh, tables and benches, cans and cups, the grandmother, the blind and the lame, aye, the children in the cradle fall to dancing."

Work composed: 1812 World premiere: December 8, 1813 in Vienna conducted by the composer
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, timpani, strings

April L. Racana / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University's Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.

On the Changes to Tokyo Phil's 2020 Season Subscription Concert Lineup

We sincerely appreciate your continued patronage of our music!

After July of the 2020 season due to the overseas artists' visiting restriction and in order to keep the social distance on stage for everyone's safety while the new coronavirus is still a threat. Please see the reverse side of this page for details.

Those customers who have already purchased tickets will be welcome to enjoy the concerts on the same dates and venue as scheduled. From July onward we will continue to take measures including reassigning seats to maintain social distance in the auditorium with open seats. We would appreciate your understanding and cooperation. We will notify the details by mail and other methods. In the event that the Tokyo Metropolitan Government asks us to suspend or change business again, we will notify you.

August 【Cancelled】

15 July

Thu August 13, 18:30 start
at Bunkamura Orchard Hall

17 July

Fri August 14, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

19 July

Tue August 18, 19:00 start
at Suntory Hall (Main Hall)

Conductor: Mikhail Pletnev
(Special Guest Conductor)

Smetana:
"Ma Vlast"

*These are postponed performances from the March subscription concerts.
*In the event that the conductor is unable to come to Japan in August due to travel restrictions, these performances will be canceled and the program will be postponed to March 2021.

Dear Tokyo Phil and its audience,

It is really a pity that I have not been able to come to Japan. I love Japan, Tokyo Phil, and the Japanese audience. I hope that the Japanese audience misses me just as I miss them.

I am very much looking forward to the day when I conduct Tokyo Phil again!

Special Guest Conductor of the Tokyo Philharmonic
Mikhail Pletnev

September

The 942nd
Fri Sep 25, 19:00 start
at Suntory Hall (Main Hall)

The 943rd
Sun Sep 27, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

The 136th
Tue Sep 29, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Conductor:
Andrea Battistoni
(Chief Conductor)

Beethoven:
Die Weihe des Hauses Overture, Op. 124
Respighi:
The Birds, P. 154
Schumann:
Symphony No. 2, Op. 61

*The dates for the originally scheduled program, Zandnai's opera "Francesca da Rimini" (in concert style), is to be arranged.

October

The 944th
Mon Oct 19, 19:00 start
at Suntory Hall (Main Hall)

The 137th
Thu Oct 22, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

The 945th
Sun Oct 25, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Conductor: Myung-Whun Chung
(Honorary Music Director)
Violin: Moné Hattori

Beethoven:
Violin Concerto Op. 61
Symphony No. 3 "Eroica," Op. 55

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)

Photo: Mikhail Pletnev & Andrea Battistoni © Takafumi Ueno, Myung-Whun Chung © Vivace, Moné Hattori © Chihoko Ishii

15 July
17 July
19 July

8月の演奏会 【公演中止】
（3月定期演奏会延期公演）

ミハイル・プレトニョフ ©上野隆文

8月13日（木）18:30
Bunkamura オーチャードホール

8月14日（金） 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

8月18日（火）19:00
サントリーホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』（全曲）

※渡航制限により指揮者が来日できない場合、
本公演は中止し、演目は2021年3月に延期いたします。

～マエストロ・ミハイル・プレトニョフからのメッセージ～

東京フィルとその聴衆の皆様へ

予定通り日本に行くことが出来ず、大変残念です。私は日本、東京フィル、そして日本の聴衆の皆様が大好きです。日本の聴衆の皆様が、私の皆様への想いと同じくらい、私と東京フィルの演奏会を待ち望んでいて下さることを願っております。

再び東京フィルを指揮出来る日を心待ちにしております。

東京フィル 特別客演指揮者
ミハイル・プレトニョフ

※当面の間、チケットの新規発売を見合わせております。新たな決定事項は東京フィルウェブサイト等で随時お知らせいたします。ご了承くださいますようお願い申し上げます。

2020シーズン定期演奏会ラインナップの変更について

平素は当団の活動に格別のご愛顧を賜り、篤く御礼申し上げます。

東京フィルは、2020シーズン7月以降の定期演奏会について、海外からの渡航制限等の状況と、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、舞台上のソーシャルディスタンスにより演奏者の安全を確保しながらコンサートを開催するため、やむなく演目を変更させていただきました。

すでにチケットをご購入いただいたお客様は予定通りの日程・会場でお楽しみいただけます。

今後も当面は客席のソーシャルディスタンスを保ち、空席を設けた再配席などの対策を行いますので、ご理解とご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。詳細は封書等にて改めてご案内いたします。また今後、再び東京都による休業要請があった場合にはあらためてお知らせいたします。

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

9月定期演奏会

9月25日(金)19:00
サントリーホール

9月27日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

9月29日(火)19:00
東京オペラシティコンサートホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ
（東京フィル 首席指揮者）

曲目・出演者を変更いたします。

ベートーヴェン／『献堂式』序曲 Op.124
レスピーギ／組曲『鳥』P.154
シューマン／交響曲第2番 ハ長調 Op.61

※当初予定しておりましたザンドナーイ：歌劇『フランチェスカ・ダ・リミニ』（演奏会形式）は実施の日程を調整中です。

10月定期演奏会

10月19日(月)19:00
サントリーホール

10月22日(木)19:00
東京オペラシティ コンサートホール

10月25日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン
（東京フィル 名誉音楽監督）
ヴァイオリン：服部百音*

7月定期演奏会から演目を移行いたしました。

ベートーヴェン／
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.61*
交響曲第3番『英雄』変ホ長調 Op.55

チケットについてのお問合せ
東京フィルチケットサービス Tel 03-5353-9522（平日10時～18時・土日祝日休）

Photo: A.バッティストーニ ©上野隆文/チョン・ミョンフン ©ヴィヴァーチェ/服部百音©Chihoko Ishii

東京フィルメンバーからのメッセージ

東京フィルメンバーからのメッセージをご紹介します。

3月以降、徐々に演奏会中止の連絡が増えてゆき、オーケストラの予定が6月まで全くないと分かった頃には気持ちを切り替え、ヴァイオリニストとして自分を見つめ直すチャンスだと考えるようになりました。早くコンサートをやりたいという気持ちはもちろんありましたが、今は「そういう時」……一時的なものだと考えて、音楽家としての自分自身と向き合う時間だと。ここ最近は毎朝の日課としてバッハの無伴奏ソナタとパルティータ全曲、ベートーヴェンのソナタ全曲録音プロジェクトの準備をし、ウォーキングや子供の野球の相手、家の中での体幹トレーニング……体力面でも自身を鍛え直す機会になりました。こんなにもオーケストラの皆と会わない日はありませんでしたから、次の出番を心待ちに、早く皆と音楽を奏でたいと思っています。（コンサートマスター　三浦章宏）

自己の基礎練習の見直し、家族との時間、自然の中でのゆったりした時間を約4か月もの間過ごしました。私の生活はずっとこうだったのかなと錯覚するほどに落ち着いて過ごせていたのであまり悲観的に考えたりはしませんでしたが、コロナ明け、個人的にステージ上で初めて音を出したのがバッハのアリアでした。チューニングの段階では平気でしたが、D durの和音が鳴った瞬間、自分の中に向かって迫ってくる感情にとても驚きました。これまで考えてきたなにかの答え合わせかのように、今までで初めて自分に向けて演奏をした気がしました。この体験は一生忘れないものになるでしょう。（第二ヴァイオリン首席　戸上眞里）

聴いていただける機会が無くなれば、演奏家は無力だ。かといって楽器に触れることを怠ればプロ奏者としての資質は失われる。こういう状態が長くなると、自分一人くらい楽器を弾かなくなったって…などと頭をよぎったりもしたが、先日久々にオーケストラで弾いたとたん、30年余のオケ人生での出来事が次々思い出され、身が引き締まる思いがした。初心に戻り、今後さらに魅力ある演奏を聴かせられるよう全力を尽くしたい。（第二ヴァイオリン首席　藤村政芳）

6月21日、オーチャードホールでの自粛明け初の定期演奏会、約4か月ぶりの本番でした。前を歩くメンバーと十分な距離を取りつつ、長い時間をかけながらステージに入場する私たちを温かい拍手で迎えてくださるお客様の前に立った時、思わず涙がこみ上げました。それほどセンチメンタルではないと思っていた自分の反応に驚きました。

終演後のビールも格別でした。美味しくお酒を飲むためにもひとつひとつの本番をもっと大事にしようと思いました。（第二ヴァイオリン首席　水鳥路）

6月定期演奏会の再開は本当に嬉しく、この感動は忘れることはないでしょう。リハーサル初日には再会の挨拶を交わし、お互いマスク越しにもこの日を待ちわびていたことが伝わってきます。再始動のステージでは最初の一人から最後にコンマスが出揃うまで温かく長い拍手をいただきウルウルくるほど感動しました。「生演奏が一番！」と思ってくださるお客様のお気持ちに心より感謝申し上げます。誰もが安心してコンサートに出掛けられる日が来ますように。（第二ヴァイオリン首席　宮川正雪）

見えない何者かに足元をすくわれ世界中がガックリ膝を落とし怯えた数か月。しかしそれ

と戦い、共存の道を選択したことにより人類は進化し今がある。今こそ東京フィルも新しい道を歩みだし進化する時。

自粛中のルーティンは筋トレと音階練習。筋肉は裏切らない！音楽も裏切らない！（ヴィオラ首席　須藤三千代）

なる様にしかならない。なる様になる、この状況を受け入れる、考えてみれば小さい時からその考え方が自分の中心にあった様な気がします。置かれた状況の中で最善を尽くす、結果は追わない、ついてくる時はついてくる。種をまかれた場所で花を咲かせる。という事は今回の状況で自分にとって最善を尽くすということは『練習』する事であり、心と身体を保つ事。家族を支える反面、家族の理解に支えられお陰様で成り立っております。それが再確認出来ました。アリガタイアリガタイ。（コントラバス首席　黒木岩寿）

長年お休みの日数が年に数日程度しかない生活をしてきたので、まずはいわゆるプロスポーツ選手が言うところのシーズンオフが生まれて初めて来た！、という感覚でした。身体のケアや奏法の整理、そしてその後、かねていつかやろうと思っていた作編曲や録音（一部Web上で公開しています）他にもたくさん。少し言いにくいことですが、実は、大変に貴重で充実した時間でした。この成果を今後お見せできればと思っております。（フルート首席　斉藤和志）

この自粛期間で沢山のリモートアンサンブルに取り組みました。普段は気軽に会えない海外の仲間とも音を重ねることができ、新たな愉しみを見つけました。

東京フィル6月定期のプレコンサートでは、3か月ぶりにホールで木管五重奏を演奏させて頂きました。本来の居場所に置かれた私たちはただただホールの響きやアンサンブルを堪能しました。お客様の視線や拍手、隣の人の息遣い全てが愛おしく尊い物だと改めて感じました。これからもこの空間を皆様と共有できる幸せを噛みしめて演奏させていただきます。（ファゴット首席　廣幡敦子）

我が家は子供4人の大家族。この3か月僕は在宅、子供たちも小学校や幼稚園がなくずっと家にいたので家の中はカオス…怒りっぽくなった自分の発見と子供の成長を存分に見届けられた素晴らしい時間となりました。そして、楽器はというと……。特に金管奏者にとって音を出す環境はとても大切です。ずっと家でひたすら吹いているのは本当に本当に辛かった……。やっと広いホールでお客様を前に吹けるこの環境に感謝して頑張って演奏します。（トランペット首席　川田修一）

オーケストラに入って10年以上、これほど長く休んだ事はありませんでした。それによって子供と一緒に過ごせたり、仕事に追われていた自分が本当に今でも音楽が好きなのかじっくり考え直す良い機会を得ることが出来たと思っています。6月の演奏会の前はお客様が来て下さるのか心配していましたが、音楽を必要としてくれる人がいて、この状況下でもコンサートに足を運んで頂ける事を本当に有り難く思います。（打楽器首席　塩田拓郎）

何も出来ないもどかしさや、この状態がいつまで続くのだろうという不安もありますが、それと同時に、家にいることしかできなかったこの3か月は、家族とゆったり過ごした貴重で幸せな時間にもなりました。

通常のコンサートの形態に戻るのはいつなのか、まだ先はわかりませんが、一日も早く当たり前の形でコンサートが行えるようになると良いなと思います。やはり、奏者とお客様が同じ空間にいるコンサートが一番です！（打楽器　縄田喜久子）

Photo Reports　2020年6月のステージより ～6月定期演奏会

東京フィルは6月の定期演奏会から自主公演を再開。2月定期チョン・ミョンフン指揮『カルメン』(オペラ演奏会形式)以来、4か月ぶりの定期演奏会となりました。渡航制限により来日ができなくなった特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフの代役として登場したのはレジデント・コンダクターの渡邊一正。

長年、共演を重ねてきたマエストロとオーケストラが3公演、再会の歓び・音楽の歓びをお届けしました。

撮影＝三浦興一

6月21日(日) 15:00開演(14:00開場) Bunkamuraオーチャードホール
6月22日(月) 19:00開演(18:00開場) 東京オペラシティ コンサートホール
6月24日(水) 19:00開演(18:00開場) サントリーホール

指揮：渡邊一正(東京フィル・レジデントコンダクター)
コンサートマスター：依田真宣

ロッシーニ／歌劇『セビリアの理髪師』序曲
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』
＊当初予定から曲目を変更し、公演時間は約1時間、「休憩無し」での開催となりました。

初日、オーチャード定期演奏会より。代役として急遽、登壇したのはレジデント・コンダクター渡邊一正。リハーサルの初日には、オーケストラに向け「またお会いできて嬉しいです」と話してタクトをとりました

コンサートマスターは依田真宣、近藤薫がともに出演

左：ドヴォルザーク『新世界より』第2楽章の有名なメロディを奏でるコーラングレ
右：ヴィオラ・セクションより

トロンボーン、テューバセクションを含む2管編成でお届けしました

Bunkamuraオーチャードホール舞台袖で、4か月ぶりの本番に向けて備えるオーケストラメンバー

全公演とも、時差入場で早めにご来場くださったお客様のため舞台上でプレ・コンサートを開催。写真はサントリーホール公演より(6/24)。出演：フルート 神田勇哉、オーボエ 佐竹正文、クラリネット アレッサンドロ・ベヴェラリ、ファゴット 廣幡敦子、ホルン 斎藤雄介

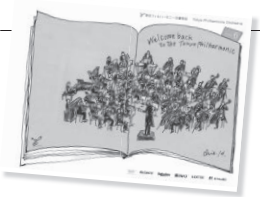
2日目、東京オペラシティ定期シリーズより(6/22)

Bunkamuraオーチャードホールにて終演後。どの公演でも、お客様からはいつもにまして長く大きな拍手をいただきました(6/21)

3公演の最終日、サントリー定期シリーズより(6/24)。熱演をお届けしました

当面、プログラム冊子は手渡し配布いたしません。会場ロビーの所定の場所に配置いたしますので、ご自由にお持ちください。東京フィル公式ウェブサイトからもご覧になれます。ぜひアクセスしてみてください。

「WEBで楽しむプログラム」
https://www.tpo.or.jp/information/detail-20200620P.php



久々の定期演奏会のプログラム表紙はお客様へのメッセージとともに(表紙絵=ハラダチエ)

4か月ぶりの定期演奏会再開によせて

千葉さとし（音楽ライター）

やや蒸し暑い6月21日の昼、筆者は2月定期演奏会のチョン・ミョンフン指揮『カルメン』以来となる東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会のためにBunkamuraオーチャードホールに赴いた。あの輝かしい名演のあと、なんと4か月ぶりの空白があったわけだ。ついに帰ってきた待望の演奏会を、ここで振り返ってみよう。

定期演奏会の再開にあたって

厳しい状況は皆様もご存知のとおりだ。私たち個々人は多くの活動を自粛し、東京フィルは大規模イヴェントを開催しないよう呼びかけられて多くの演奏機会を失った。今回の定期演奏会も日程こそ予定通りだったが「コロナ以前」のように、「いつもどおり」に開催できたわけではない。感染拡大防止、舞台上の演奏者たちの安全、行政からの指導…など、考慮されるべきことはあまりに多く、それに対して開催決定からの時間はあまりに短い。しかもその対応についてはまだ世界中の誰も「これで大丈夫」とは言い切れない状況なのだ。

Bunkamuraオーチャードホール　エントランスにて（6/21）©三浦興一

定期演奏会の開催にあたって、東京フィルはチケット購入者にはがきを送付し新たに座席を割り振って聴衆同士の座席の間隔を作り、また事前に注意事項を伝えた。この対策は功を奏し、入場に際して来場者同士の接触や密集を避けられ、3日とも入場時に混雑や混乱はなかった。聴衆を迎えるスタッフは手袋、マスクに加えてフェイスシールドも着用して万全を期していた。開場後も来場者用消毒スペースの配置を人の流れに応じて動かしたりと、現場での細かい調整も行いながら昼公演（6/21）／夜公演（6/22、24）、晴天／雨天に3つの会場と、異なる条件下で混乱なく演奏会が定刻に開演できたのだから、運営面では大成功と言えるだろう。

出演者の安全対策

また楽団員たちの安全のため、舞台上でも多くの配慮がなされていた。楽団員同士は以前より少し距離を取り、管楽器のベルの先には仕切りを用意し…、などの多面的な準備が見て取れた。この「新しい距離感」は演奏上容易でなかった面もあろうけれど、

小さめの編成ながら広いオーチャードホールのステージをも十分に舞台を埋め、結果として私たちに見える舞台が実験的なそれとはならなかったことに、意外なほど安心感を覚えた。

そしていよいよ時間が来てコンサートは開演する。楽団員は距離を取るため一人ずつ入場してくるのだが、最初の一人が舞台に現れたその瞬間から終演時のような拍手が会場から上がる。その拍手を受けて、全員が揃うまで着席せず客席を見る楽員たちの笑顔がまた嬉しい。

舞台袖で距離をあけて入場を待つオーケストラメンバー（6/22東京オペラシティ）
©三浦興一

そしてレジデントコンダクターの渡邊一正が入場しておなじみの『セビリアの理髪師』序曲が始まる。この1曲目の表情は、その日ごとに全く違っていた。初日は場内にみなぎる緊張感そのままに、ベートーヴェンさながらに深刻に重く響いた。しかし翌日2日目には実にロッシーニらしい饒舌な演奏に変わり、サントリーホールでの最終日には堂々たる演奏が展開されて、と変わりゆくさまに、私は“オーケストラという生き物”の面白さを見る。

そしてメインのドヴォルザークの『新世界より』は、どの日もこれまで慣れ親しんできた有名曲とはまた違う音楽として響いた。作曲者が欧州から遠く離れて経験した『新世界』への憧憬ではなく、言うなれば私たちがこれから生きていく新しい世界に向き合うための出発点の風景。暗譜で指揮するマエストロと、この曲を何度も何度も演奏してきただろう東京フィルによってこのような感慨がもたらされようとは、事前には予想もできなかった。これだから演奏会は面白い。

さて、6月定期は3公演とも演奏時間ほぼ1時間ほどで終演した。都のガイドラインに準じたこの短めの演奏会は、小さめの“第一歩”かもしれない。だが短い中にも聴きどころの多い演奏会を成功させた経験は間違いなく今後に活かされて、東京フィルは新しい時代に応じた演奏会を開催してくれる。そう確信できたことが、何より喜ばしい。ここからまた音楽が始まる、のである。

初日、6月21日オーチャード定期演奏会カーテンコールより。お客様の長く熱い拍手をいただき、東京フィルの再出発となりました　©三浦興一

演奏会場の感染対策についてのご報告

定期演奏会の再開にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大予防のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じました。一部をご紹介します。

入場前の手指消毒、間をあけて整列のお願い

入場券（座席番号はがき）の目視確認と、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています

ソーシャルディスタンスによる再配席を行い、入場券（座席番号はがき）にご来場者様の連絡先を記入いただき、終演後に回収しております。ご連絡先は公演後1か月間、厳重に保管の後、焼却処分いたします。防疫上の目的以外には使用いたしません。
ロビーの混雑を避けるため、ご来場前にご記入をいただけますと幸いです。

法人賛助会員様より
マスクのご寄附をいただきました。

今回の事態にあたり、東京フィルをご支援いただいている法人賛助会員の日本ライフライン株式会社（代表取締役社長：鈴木啓介）様からディスポーザブルマスクを5,000枚ご寄附いただきました。

スタッフ・メンバーでの着用に加え、演奏会場のロビーでお客様にお持ち帰りいただけるコーナーを設けました。

写真＝三浦興一

ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2月下旬より東京フィルが出演する演奏会の全てが中止・延期となりました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、中止公演のチケット払戻し辞退によるご寄附や、銀行振込等による温かいご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今後の演奏会も、感染症拡大防止の観点から、当面の間は規模を縮小しての開催が見込まれております。

皆様のご寄附が大きな力となります。引き続いてのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（本冊子31ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 （郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	

※ 寄附金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入して、下記送付先へご送付ください。寄附申込書の書式については、下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらから
https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf

【寄附申込書　送付先／お問合せ】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団·広報渉外部　寄附担当
〒163-1408　東京都新宿区西新宿3-20-2　東京オペラシティタワー8階
Fax　03-5353-9523　　Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel　03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

盛夏の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
この季節に相応しい、躍動感溢れる演奏をお楽しみください。
引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長　三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、
法人並びに個人（パートナー会員）の皆様のご寄附により支えていただいております。
ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル･サプライヤー（敬称略）

ソニー（株）	代表執行役　会長 兼 社長　CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛膓 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順 ･敬称略）

（株）IHI	代表取締役社長	満岡 次郎	（株）インターテクスト	代表取締役	海野 裕
（株）アイエムエス	取締役会長	前野 武史	ANAホールディングス（株）	代表取締役社長	片野坂 真哉
相澤内科医院	理事長	相澤 研一	（株）NHKエンタープライズ	代表取締役社長	安齋 尚志
アイ･システム（株）	代表取締役会長 兼 社長	松﨑 務	桜美林大学	総長	佐藤 東洋士
（株）アシックス	代表取締役会長CEO	尾山 基	大塚化学（株）	特別相談役	大塚 雄二郎

(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長	松下 和雄
(公財)オリックス宮内財団	代表理事	宮内 義彦
花王(株)	代表取締役 社長執行役員	澤田 道隆
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏
キヤノン(株)	代表取締役会長 CEO	御手洗 冨士夫
(株)グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋
(株)ケイブ	取締役会長	高野 健一
(医)浩仁会　矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新興和製薬(株)	代表取締役	田中 めぐみ
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
ジューテックホールディングス(株)	代表取締役会長	足立 建一郎
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニー(株)	代表執行役　会長 兼 社長　CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント	代表取締役社長	村松 俊亮
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎
高砂熱学工業(株)	代表取締役社長	小島 和人
(株)タクト	代表取締役	苗代 政治
都築学園グループ	総長	都築 仁子
(株)テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆
東急(株)	取締役社長	髙橋 和夫
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)ニチイケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
(株)ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
(株)三井住友銀行	頭取CEO	髙島 誠
三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮﨑 毅
(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(株)京王エージェンシー	代表取締役社長	大里 公二
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹
(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援のお願い

2020年3月、東京フィルハーモニー交響楽団は創立109年を迎えました。

1月に新シーズン開幕を迎えた東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家らと共に様々な作品に取り組み、より広く多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

ご寄附会員の種別

種別		年会費1口	
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円	※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。 その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。
	後援会員	30万円	
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円	
	フィルハーモニー	50万円	
	シンフォニー	30万円	
	コンチェルト	10万円	
	ラプソディ	5万円	
	インテルメッツォ	3万円	
	プレリュード	1万円	

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当（partner@tpo.or.jp）までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部（担当：星野・鹿又（かのまた））
電話：03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール：partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ･ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ･ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業ー巡回公演事業ー」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道･東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童･生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東･東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童･生徒に音楽をお届けしました。

小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。

定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン･ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)　©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。

※留学生招待シート、東日本大震災“とどけ心に”特別招待シートは、当面の間ご案内を停止させていただいております。詳細は次ページをご参照ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「東日本大震災”とどけ心に”特別招待シート」として活用させていただいて参りましたが、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大防止策の実施に伴い、当面の間、チケット寄附の運用を見合わせとさせていただくことといたしました。再開となりましたら改めてご案内をさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月以降の東京フィル定期演奏会／午後のコンサートのチケットの払戻を辞退することによる東京フィルへのご寄附については、ご希望の方に税控除のための確定申告用の書類（寄附領収証書・税額控除に係る証明書）をお送りしております。税控除に関する詳細は東京フィル事務局・寄附担当 partner@tpo.or.jp までお問合せください。

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- **商品のプロモーションとして何か施策を考えたい**
- **社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい**
- **東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい**
- **新製品、サンプルを会場で販売・配布したい**

どうぞお気軽にご用命ください。

日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
電話：03-5353-9521（平日10時～18時）
Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約130名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン･ミョンフン、首席指揮者アンドレア･バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル･プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ･バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 130 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS　**https://www.tpo.or.jp/**

©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員
Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

栃本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高木 祐香
Yuuka Takagi

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

津田 好美
Yoshimi Tsuda

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirosawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 眞里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

山内 祐子☆
Yuko Yamanouchi

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邉 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

髙平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曽和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos

金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki
服部 誠◎
Makoto Hattori
渡邉 辰紀◎
Tatsuki Watanabe
黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa
高麗 正史☆
Masashi Korai
石川 剛
Go Ishikawa
大内 麻央
Mao Ouchi
太田 徹
Tetsu Ota
菊池 武英
Takehide Kikuchi
佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki
長谷川 陽子
Yoko Hasegawa
渡邊 文月
Fuzuki Watanabe

コントラバス
Contrabasses

片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka
黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki
小笠原 茅乃○
Kayano Ogasawara
遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo
岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto
小栗 亮太
Ryota Oguri
熊谷 麻弥
Maya Kumagai
菅原 政彦
Masahiko Sugawara
田邊 朋美
Tomomi Tanabe
中村 元優
Motomasa Nakamura

フルート
Flutes

神田 勇哉◎
Yuya Kanda
斉藤 和志◎
Kazushi Saito
吉岡 アカリ◎
Akari Yoshioka
さかはし 矢波
Yanami Sakahashi
下払 桐子
Kiriko Shimobarai
名雪 裕伸
Hironobu Nayuki

オーボエ
Oboes

荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa
加瀬 孝宏◎
Takahiro Kase
佐竹 正史◎
Masashi Satake
杉本 真木
Maki Sugimoto
三谷 真紀
Maki Mitani
若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashi

クラリネット
Clarinets

チョ・スンホ◎
Sungho Cho
アレッサンドロ・ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari
万行 千秋◎
Chiaki Mangyo
黒尾 文恵
Fumie Kuroo
林 直樹
Naoki Hayashi

ファゴット
Bassoons

チェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe
廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata
井村 裕美
Hiromi Imura
桔川 由美
Yumi Kikkawa
森 純一
Junichi Mori

ホルン
Horns

磯部 保彦◎
Yasuhiko Isobe
齋藤 雄介◎
Yusuke Saito
高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi
今井 彰
Akira Imai
大東 周
Shu Ohigashi
木村 俊介
Shunsuke Kimura
田場 英子
Eiko Taba
塚田 聡
Satoshi Tsukada
豊田 万紀
Maki Toyoda
古野 淳
Jun Furuno
山内 研自
Kenji Yamanouchi
山本 友宏
Tomohiro Yamamoto

トランペット
Trumpets

川田 修一◎
Shuichi Kawata
野田 亮◎
Ryo Noda
古田 俊博◎
Toshihiro Furuta
重井 吉彦
Yoshihiko Shigei
杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama
前田 寛人
Hirohito Maeda

トロンボーン
Trombones

五箇 正明◎
Masaaki Goka
中西 和泉◎
Izumi Nakanishi
辻 姫子○
Himeko Tsuji
石川 浩
Hiroshi Ishikawa
平田 慎
Shin Hirata
山内 正博
Masahiro Yamauchi

テューバ
Tubas

大塚 哲也
Tetsuya Otsuka
荻野 晋
Shin Ogino

ティンパニ&パーカッション
Timpani & Percussion

岡部 亮登◎
Ryoto Okabe
塩田 拓郎◎
Takuro Shiota
高野 和彦○
Kazuhiko Takano
木村 達志
Tatsushi Kimura
鷹羽 香緒里
Kaori Takaba
縄田 喜久子
Kikuko Nawata
船迫 優子
Yuko Funasako
古谷 はるみ
Harumi Furuya

ハープ
Harps

梶 彩乃
Ayano Kaji
田島 緑
Midori Tajima
宮原 真弓
Mayumi Miyahara

ライブラリアン
Librarians

武田 基樹
Motoki Takeda

ステージマネージャー
Stage Managers

稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka
大田 淳志
Atsushi Ota
古谷 寛
Hiroshi Furuya

◎首席奏者
Principal

○副首席奏者
Assistant Principal

☆フォアシュピーラー
Vorspieler

役員等·事務局·団友

役員等（理事·監事および評議員）

理事長
三木谷 浩史

副理事長
黒柳 徹子

専務理事
石丸 恭一

常務理事
工藤 真実

理事
浮舟 邦彦
大賀 昭雄
大塚 雄二郎
小山田 隆
篠澤 恭助
田沼 千秋
寺田 琢
遠山 敦子
野本 弘文
韓 昌祐
平井 康文
宮内 義彦

監事
岩崎 守康
山野 政彦

評議員
伊東 信一郎
海老澤 敏
佐治 信忠
鈴木 勲
鈴木 啓介
瀬谷 博道
日枝 久
南 直哉

事務局

楽団長
石丸 恭一

事務局長
工藤 真実

公演事業部
市川 悠一
岩崎 井織
大久保 里香
大谷 絵梨奈
佐藤 若菜
村尾 真希子

ステージマネージャー
稲岡 宏司
大田 淳志
古谷 寛

ライブラリアン
武田 基樹

広報渉外部
伊藤 唯
鹿又 紀乃
千木 加寿子
二木 憲史
星野 友子
松井 ひさえ
安田 ひとみ

総務·経理
川原 明夫
鈴木 美絵

団友

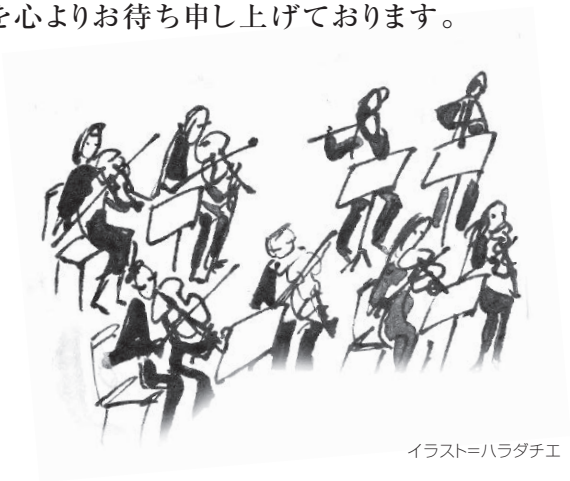
安藤 栄作
池田 敏美
糸井 正博
井料 和彦
岩崎 龍彦
植木 佳奈
上野 眞行
生方 正好
大兼久 輝宴
大和田 皓
岡部 純
小樽 敦子
小山 智子
甲斐沢 俊昭
加藤 明広
加藤 博文
金崎 真由美
川人 洋二
木村 友博
黒川 正三
河野 啓子
近藤 勉
今野 芳雄
齊藤 匠
坂口 和子
嵯峨 正雄
嵯峨 美穂子
桜木 弘子
笹 翠
佐々木 等
佐野 恭一
清水 真佐子
瀬尾 勝保
高岩 紀子
高村 千代子
竹林 良
竹林 陽子
田中 千枝
田村 武雄
戸坂 恭毅
長池 陽次郎
長岡 愼
長倉 穣司
新田 清枝
新田 伸雄
野仲 啓之助
玻名城 昌子
福村 忠雄
藤原 勲
細川 克己
細洞 寛
本田 詩子
松澤 久美子
湊 貞男
山屋 房子
吉田 啓義
米倉 浩喜
脇屋 俊介

〈発行日〉2020（令和2）年7月15日　〈発行人〉石丸 恭一
〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F　Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523
フランチャイズ·ホール: Bunkamuraオーチャードホール　提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市
〈デザイン〉米田デザイン事務所　〈表紙画〉ハラダチエ　〈編集協力〉ひとま舎
〈印　刷〉欧文印刷株式会社
©Tokyo Philharmonic Orchestra ＊無断転載を禁ず（非売品）

本日はご来場いただき、まことにありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。

またのご来場を心よりお待ち申し上げております。



イラスト=ハラダチエ

TOKYO PHILHARMONIC